

# 日本基督教団 東中国教区ニュース



東中国教区  
教区ニュース誌委員会  
〒700-0005  
倉敷市鶴形一五五  
倉敷キリスト教会館内  
TEL 086-422-1780

## 目次

クリスマス説教……	1
「お聞かせください、地区の声」……	2
「教区伝道協議会報告」……	3
「社会委員会人権集会報告」……	4
「信徒と教師の合同研修会」……	5
「日本基督教団総会報告」……	6
「教会紹介」……	7
「こんにちば」のお部屋・編集後記……	8

## 「クリスマス説教」

### 「命がけの福音宣教」

鳥取信和教会 牧師 塚本 望



聖書…ヨハネによる福音書一章一〜十八節

二〇二四年もあと数日となりました。巷ではクリスマススの装飾で彩られ、私たちの目を楽しませ

てくれます。しかしどれ程の人々が、クリスマススの本当の意味をご存知でしょうか。

ヨハネによる福音書一章一節に「初めに『言』があった。…『言』は神であった。」と宣言され、その『言』なる神が、一四節「肉」となって、わたしたちの間に宿られた。」と証されています。これこそがクリスマススのメッセージです。

「宿られた」と訳されている語は、直訳

すると「幕屋を張った」という意味になります。これは、旧約時代、神の栄光が幕屋と共にあったことに倣って、神の栄光がこちらの方のうちに宿り、暗闇の世を照らす真の『光』となったことを表しています。ところが五節「暗闇は『光』を理解しなかった。」と記されており、残念ながらこの状態が今も続いています。だが信仰の先輩である使徒たちは一四節「わたしたちはその栄光を見た。」と大胆に証しています。

そもそも、この福音書が書かれた紀元一世紀末は、ローマ帝国が世を支配していた時代であり、ユダヤ人もその支配の中にありました。

紀元六〇年代、ユダヤ人はローマ帝国への抵抗を強め、ついにユダヤ戦争にまで発展しましたが、圧倒的な兵力を持つローマ帝国に弱小のユダヤ人が勝てるはずもなく、紀元七〇年エルサレムは陥落。神殿は完全に破壊されて神殿礼拝は終わりを告げ、律法主義的宗教生活が主流となりました。

それは同時に、メシア待望を捨てることを意味していました。大国に支配されてき

たユダヤ人は、旧約聖書に預言されているメシアの到来を誰もが待望していました。しかしメシアは到来せず、その挫折感是非常に深いものでした。そこで、過激なメシア待望はむしろ国を滅ぼし、民族そのものを滅ぼす危険思想であるとの決断が下されたのです。

その結果、ナザレ派と呼ばれるイエスをメシアと信じるキリスト者は、ユダヤ教から異端宣告を受けて会堂から追放され、ローマ帝国からの弾圧を受けても仕方のない危険な宗教団体であるとされたのです。この時代は、まさに現人神であるローマ皇帝に対する礼拝を強制された時代であり、それに抵抗するキリスト者たちに容赦のない迫害が加えられました。

しかし、このような状況の中にあっても、この福音書の記者は福音を宣べ伝えようとしていました。それは命がけのことであり、この信仰を土台として今の私たちがあります。私たちは命がけでこの福音を宣べ伝えていくだろうか。今一度問うてみたいものです。

## 「お聞かせください、地区の声」

今回は「鳥取県東部地区」です！

鳥取県東部地区長 木谷 実

鳥取県東部地区には七つの教会があります。比較的距離も近いので信徒同士がお互いの顔を知っていることも多く、かつてはバザーや青年会での行き来も頻繁に行われていました。それらがストップしてしまっただのがコロナ禍です。加えて信徒の高齢化と無牧師教会の増加、教師や信徒の体調不良もあり地区の動きは停滞してしまいました。コロナ禍も落ち着いてきたところ、地区活動を再開するにあたり諸行事の内容を見直していききました。そしてまずはお互いが顔を合わせることから始めようとなり、立ち上がった企画が「いーなとうぶ」です。これは宮沢賢治による造語で理想郷を意味する「イーハトーブ」をもじったタイトルです。（名づけたのはもちろん、元鳥取教会牧師の横山順一先生です。）二〇二四年度は青谷教会と用瀬教会を会場に行われました。青谷教会では礼拝と交流のときを、

用瀬教会では礼拝とみんなで賛美するときをもちました。久しぶりの再会を喜ぶ方、初めての出会いに感謝する方など、改めて地区を形成し直すきっかけとなりました。

「いーなとうぶ」のもう一つの目的は地区集会などで集まる機会の少ない教会で共に礼拝をすることです。実際に現地に赴くことにより、これまで以上に親しみをもって各教会とそのメンバーを覚えることができます。これから各教会の信徒数は減っていき、財政規模も縮小していくことが予想されます。そのために各教会のメンバーが知り合っていくことは、今後の地区宣教のために必要です。そして何より、理想郷とまでは言えないかもしれませんが、お互いが顔を合わせることで「いいなあ東部地区って」と思えるような活動にしていきたいです。

鳥取県東部地区は現在三つの教会が無牧です。財政規模の大きな教会は多くありません。働き手が少なく大変に思うこともあります。今後もこの状況は続いていくことが予想されます。そんな状況なのですが暗くはありません。地区の方々は互いを気に

かけ合い、会えばその度に再会を喜んでいきます。もともと仲の良い地区なのでしょ。そのおかげなのか地区活動も温かい雰囲気です。これからも神様が導いてくださるままに、ぼちぼちと出来る範囲の活動に取り組んでいきたいです。

今号から新しい企画として「お聞かせください、地区の声」を連載することとなりました。トップバッターとして「鳥取県東部地区」が寄稿してくださいました。このような形で東中国教区の各地区の働きや課題など現状を皆様に広く知っていただき、教区全体でより良く考えていくものとなればと願っています。今後各地区に執筆をお願いします。どうぞご協力をよろしくお願いします。

(ニュース誌委員会)

# 「教区伝道協議会報告」

伝道委員 蕃山町教会 加藤 隆

二〇二四年九月二三日(月・祝)十三時から、蕃山町教会において伝道委員会主催の「教区伝道協議会」が行われました。今回は「教会のホームページをつくらう!」と題して、発題とホームページを作るワークショップを行いました。

はじめに伝道委員である加藤の発題がありました。発題のテーマは「教会のホームページを持つということ」。自身の人生を振り返りながら、幼いころからいかにインターネット、SNSと付き合いながら生きてきたかをお話しました。高校生で携帯電話を両親から買ってもらい、大学生でパソコンを入手し、そこから今に至るまでインターネットまたパソコンやスマートフォンといったインターネットを見えるためのものと切っても切れないお付き合いをしてきたということをお話しし、それはわたしだけの特別な経験ではないということ、つまり我々の生活にすっかりインターネット、スマホが入り込んでいるんだというお話をしました。

今の時代の人たちはインターネットに依

存して生きています。そんなことはないですと言える人はなかなかいません。だからこそ、この中へとわたしたち教会も入っていかなくてはいけないんだ、心のシェアを獲得していかねばならないんだと思うのです。心のシェアを獲得すること、インターネットで動画を見たり、音楽を聴いたり、文章を読んだり、買い物をしたり、メールのやり取りをしている、その人の視界、心の視界に入って神さまを伝えるということ。今の人たちは欲しいもの、面白そうなもの、楽しいもの、もつと言えば癒しや救いまでネット上で探します。検索をかけます。わたしたち教会はそこに居なければならぬ。なぜなら他のものに心のシェアをとられてしまうからです。そのためにインターネット上にわたしたちの教会のホームページをつくり、発信をしていくことはまったく必要ないこと、無駄なことではないのです。

ホームページを作ると聞くとハードルが高い、難しいと思うかもしれませんが、でも最低限の情報でいいんだと言うお話もしました。教区内の教会のホームページ(新見教会のホームページを紹介させていただきました)を参加した皆さんに紹介し、シンプルだけどよいホームページを目指そうということ共有し、後半は

「Webnode」というホームページを作成するサイトを使いながら協議会に参加した皆さんの各教会のホームページを作るという体験をしました。いざ実際にパソコンに向かってみると難しく、会場の蕃山町教会のWifiにつなぐところから四苦八苦でしたが、それでも意外とやってみると楽しいという声を頂き、持ち帰ってそれぞれがホームページ制作に取り組んでいると聞いて感謝です。一回だけで終わらせず、定期的に、継続的にこの会を行って多くの教会がホームページを作成し公開出来るようにしていきたいと願っています。今回は九教会十五名の参加がありました。感謝して報告いたします。





# 「社会委員会人権集会報告」

## 「部落差別と教会」

東中国教区社会委員会

倉敷教会 宮脇俊昭

日時：二〇二四年十月十九日（土）

参加者：二十二名

（会場十六名 Zoom六名）

社会委員会主催の人権集会が岡山教会にて開催されました。今年度は「部落差別と教会」というテーマで教団部落解放センター主事の上野玲奈さんを講師に招きお話



をお聞きしました。初めに、上野さんが自己紹介ということで、ご自身のこれまでの歩みについてお話くださいました。何故教会が、教区・教団が部落差別問題に取り組むのかということ話をされました。日本基督教団が部落解放について具体的に取り組むきっかけは一九七四年に起きた「豊中教会代務牧師部落差別発言」問題でした（それ以前にも様々な取り組みはしていた）。選挙活動で同教会に支援の電話をかけたところ差別発言が牧師からなされたとのことでした。さらにはそれまでに多くの牧師や著名な神学者の説教・文書等に多数の差別発言があることが明らかにされたきっかけでもありました。調べてみるとその牧師も部落差別の問題が良くわかっていないところもあったとのことでした。そのようなことから日本基督教団が「部落解放センター」を設立するに至りました。現在の活動としては①七月第二主日を「部落解放祈りの日」として全国教会への呼びかけ、②狭山事件の再審を求める運動、③同宗連への連帯参加等があります。また差別をなくしていくために被差別側の当事者の声を紹介し、差別を認め謝る態度の大切さを伝え、教師初任研修（ただし十五分程度のため本心に理解していただけるか疑問）、その他様々な活動をされています。そして私たちの教会が部落差別をなくすためには差

別される当事者の声をしっかり聞くこと。これは避けてはならない。差別したことに ついて指摘された場合、それを認め謝ること。正しい知識を持ち偏見に気付くこと。そしてキリスト者として信仰の言葉で語れるようになり、教会とともに祈れるようになりたいとおっしゃっておられました。他にもここで紹介できなかったことがたくさんありました。本当に皆さんに聞いて欲しかったと思っています。社会委員会では毎年このような身近にあつて大切な話題についての研修会を開催しています。先生方や信徒の皆さんに聞いて欲しいと感じました。



# 「信徒と教師の合同研修会」

教育委員会 委員長 三浦きょうこ



講演お三方

今年の東中国教区「信徒と教師の研修会」は、豪華に三人の講演者・平野克己代田教会牧師、F E B C メインパーソナリティー吉崎恵子さん、そしてゴスペルジャズシンガーのKishikoさんをお迎えして、津山の高倉栄光教会と久世の風曜日でもたれました。メインテーマは「希望の風は外から来る」。テーマ通り、聖霊のダイナミックな動きと命の水の豊かさを体感した研修会となりました。ここではすべて語り尽くすことは出来ませんが、少しでもお伝え出来たらと思います。

中井大介副議長の挨拶・祈祷からはじまったこの教区企画は、参加者と共に造り出された、主から与えられた不思議な聖霊空間でした。聖霊は頭で考えるものではない

く、人々の間を吹きまくる激しい風となりました。Kishikoさんの奏唱、吉崎さんの聖書朗読、平野先生のメッセージという礼拝式の中のひとつひとつの要素が相乗効果となって鳴り響く空間は、1×3ではなく、3の3乗にまざる時間でした。一日目に平野克己先生が語られたのは、わたしたちは風・聖霊の通気孔だというメッセージでした。自分の心の内から聞こえてくる雑音ではなく、外から来る風に聞き、自分自身が、その風を通していく通気孔となる。二日目もまた、外からいただいた命の水と、それがふき出していく証しとなりました。水源はイエス様です。三日目は、多くの方々が神様への賛美を、涙をこぼさぬよう上を仰いで歌う時となりました。キリスト者として幾度も歌ってきたその賛美の歌詞が「今日、はじめてわかった」と、何人もの方が口になさった不思議な瞬間でした。賛美は、人と神の、また人と人との対話の業だと強く感じました。

お三方が無報酬で力強い証しをして下さったこの講演が、あまりに力強く恵みあふれるものであったので、もっと多くの方に、特にまだキリストを知らないより多くの方々聞いていただけたらよかったのと思いました。最後に、今回は会場を鳥取

側と岡山側双方から来られる場所に設定しましたが、結果、岡山側からのみの参加となりました。今後、より多くの教区のみなさんが集える場をご提供するために、宣教部教育委員会宛お知恵をお寄せくだされば幸いです。

〈教育委員会主催「青年の集い」のご案内〉

日時 二〇二五年三月三日～四日  
場所 真庭新庄やまなみ泊

(参加費三千円)

参加応募 十八歳～四十代まで・

メ切り一月末

とても楽しい企画です。どうぞ多くの若者にお声掛けください。(各教会は若者参加への補助をよろしくお願い致します。)



風曜日にて



# 「日本基督教団総会報告」

倉敷水島教会 牧師 小岩 輝

教団総会が十月二十九日から三日間の日程で、ホテルメトロポリタンを会場として行われました。予定されていた四六議案のうち八議案が審議未了廃案とされ、二議案（北村慈郎教師関連）が上程を認められませんでした。今回審議未了廃案とされた案件には、沖縄教区に関連する議案三件、伝道資金に関する議案二件が含まれています。本総会では、「日本基督教団の全体教会としての一体性を確認する件」が可決されました。提案理由には、この確認が機構改定を進めていくための土台となると書かれています。個人的には、何ら教憲・教団に規定されず、定義されない「全体教会」という言葉が、今後、特定の理念を教憲・教団に含ませる足掛かりとなることを危惧いたします。二二年間にわたる沖縄教区と教団との問題については、教団執行部の取り組みの限界を顕わにしました。総じて総会は丁寧な議事進行がなされましたが、教団財政、伝道資金の運用、二種教職制の問題については現状維持の域を出ず、また将来世代に対する視

点が欠けていました。教団は、新しい課題や要請について広く議論できる場へと変わらなければ、時代に取り残され、存在意義を喪失してしまうのではないのでしょうか。

蕃山町教会 河田直子

様々な課題を残して、第四三教団総会が閉会しました。沖縄教区との課題、伝道資金制度について、また二種教職制の課題です。今回は、議論されたものの、解決とまでは至らず、出席された議員一人一人が課題として持ち帰ったことでしょう。違いや対立がともすれば強調される中、第三十号議案「日本基督教団の全体教会としての一体性を確認する件」が可決されたことは、これから共に一つのキリストの体として伝道に励むための道筋になると、希望を持つことができました。教派や伝統をそれぞれに受け継ぎ大切にし、立っている地域の状況や課題の違いを担って歩んでいる教会、伝道所の多様性こそが、教団の豊かさとなる……その一つの要となるのは「日本基督教団信仰告白」であるはずで、私自身、この信仰告白を信じ告白して洗礼を受け、日本基督教団の信徒となりました。総会の議場でこの信仰告白を告白できないと発言さ

れた教師がおられました。驚くと同時に、本当に悲しくなりません。慰めを祈りたいと切に願いました。価値に罪より救われ赦され、復活の希望を与えられて生きる私たちです。主の十字架の死を無駄にせず、「主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ」、この信仰のもとで互いに愛しあい、仕えあつて歩みたいと祈り、願います。なお、蕃山町教会・加藤隆先生の正教師検定試験合格承認もされ、大きな喜びです。これからの日本伝道のためにお働きが祝福されますように。



# 教会紹介

## ・笠岡教会・

執筆者 土屋喜久子

笠岡教会は、瀬戸内海に面する岡山県南西部の端、笠岡市にあります。山陽本線の笠岡駅に近く、海産物、農産物も豊富です。福音の種がまかれてから百五十年、教会設立から百四十年となります。

二〇二二年 七月末無牧となり、同年八月より玉島教会の三浦きょうこ牧師を代務者としてお迎えしました。主日礼拝は、教区より教会強化特別資金（兼務、代務等教会礼拝サポート）の支援をいただき、多くの牧師先生方にご奉仕いただきました。そして、玉島教会とのオンライン合同礼拝や信徒奨励を含めて、今日まで礼拝を守ることができています。私達笠岡教会の礼拝が豊かに守られ、また地区と歩めている思いと恵みに、日々感謝しています。

二〇二三年十月には中部地区と西部地区の四教会が合同で、玉島教会にて礼拝を守ることができました。そして、同年十一月には、笠岡教会にある明治のオルガンを活用させ、中村証二さんによるオルガンコンサートを、地区の虹の会と共催で開催でき

ました。他住の教会員や地域の方にも足を運んでいただき、五二名もの方々が会堂に集められました。小さな群れが、大きな恵みをいただき、本当に感謝でした。

二〇二四年十一月一日現在、笠岡教会の現住陪餐会員十四名、他住会員三名、礼拝出席者平均八名です。高齢者が主ですが、幼児、働き盛りの信徒もいます。集会としては、教会学校は月一回程度、オリーブ会（学びと交わりの会）第二日曜日、アンブレ会（毎月三名の方を中心に礼拝後祈祷する会）があります。聖書を学ぶ会・祈祷会

は、二〇二四年十月より玉島教会とのオンラインで再開しました。

笠岡教会の二〇二四年度の標語は「共に働く」、聖句は「神を愛する者たち、つまり、ご計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています」（ローマの信徒への手紙八章二八節）です。すでに進めている教会間の礼拝オンライン化も含め、地区で連携をさらに深め、地区教会形成を担っていく働きを、主と共に歩んでいきたいと思っています。





# 「こんにちは」のお部屋

## 「教区内ハラスメント学習会報告」

SH防止小委員会

副委員長 金子直子

SH防止小委員会は月一回の相談窓口と二十回を超える地区巡回ハラスメント学習会を継続し十六年が経過しました。この学びが信仰の試金石となることを願い、最新の情報・対処法を全国の教区連携しつつ活動しています。次なる世代に豊かな教会生活を継承することを祈り求めながら、二〇二五年度も二地区を巡ります。以下は、学習会参加者のお声です。

## 「〇ハラ」「不機ハラ」って、知っていますか？

久世教会 宮本裕子

SH防止小委員会は、教区内の教会を会場に、毎年、学習会を開催してきました。今年は、岡山県北部地区の高倉栄光教会で行われました。

まずは、「時代と共に変遷したハラスメント」について学びます。「セクハラ」が有名ですが、「パワハラ」、「カスハラ」も、認知されるようになります。しかし「ハラスメント」の中身も、最近では、変化があるようです。「カスハラ」のように、「言った者勝ち」そんな時代になってきているのかもしれない。自分が不快な感情を抱けば、成立するのが「ハラスメント」です。何よりも「ハラスメント」の出来事は、その都度、その本質をよく確かめることが必要でしょう。

この日の本題は、「教会型ハラスメント」でしたが、これも時代と共に変化しています。教会の長い伝統や制度による「教会の権威」のとらえ直しも必要かもしれません。私たちは隣人に真摯に耳を傾け、互いの多様さを尊重し、素直に語り、聴く、つ



まり「話し合い」が大切なのです。金子氏の講義の後、二人一組になって「ダイアッド（片方が思いを語り、片方はただ黙って聴く）」を実践し、最後に、真新しい高倉栄光教会の講壇の前で、笑顔の集合写真を撮りました。感謝。

## 編集後記

クリスマスのおとずれをお祝いたします。神はそのひとり子をお与えになったほどに世を愛されたとの言葉を思い起こします。愛してくださっている世に平和と愛が満ちるように私たちも祈りを絶やさず、希望の光をみつめて歩みたいと願います。今号も多くの方々のご協力により発行ができましたことを感謝します。(W)



## ★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時～午後九時  
電話番号 ○九〇ー一三三三〇ー八七三〇  
イイミミット ハナソウ